

住民と議会をつなぐ

すみた 議会だより



No. 187

令和6年
10月25日

「美味しそう～、
食べちゃおうかな!?!」

(有住保育園) 関連記事 20P

令和5年度決算

どう使われた51億円

樹木管理などで論戦
(5人の議員が一般質問)

議会レポート

すみた想い人

④

⑧

⑭

⑲

岩手県住田町議会



令和5年度 決算議会

第5回定例会
(9月議会)
あらまし



△ 有住中と世田米中が統合し「住田町立住田中学校」に
右手奥は令和5年度に屋根の改修工事を行った体育館

第5回定例会（9月議会）は、9月12日から24日までの13日間の会期で開かれ、一般質問には5人の議員が登壇。教育の充実、次期総合計画、介護予防、庁舎周辺整備、観光振興などについて議論が交わされました。本会議では、町条例の一部改正や令和6年度一般会計補正予算などの議案13件を可決（人事案件は同意）。令和5年度一般会計及び3特別会計の歳入歳出決算並びに2事業会計決算については、決算審査特別委員会を設置し審査しました。

令和6年度一般会計

補正予算

大船渡住田線に補助金

交通インフラを維持

路線バス大船渡住田線は、利用者の減少や震災特例による国からの補助金が7年度で終了見込みとなることから、路線維持が難しくなっている。7年度事業の赤字見込み分に対し、大船渡市と共同で予算措置をすることで、同路線の維持を図る。住田町からの補助金額は423万円。

問

路線存続のための事業者への支援策が必要ではないか。

答

路線バスの赤字を補填するため国の補助金制度

を、事業者が十分活用できるように手助けするために、地域公共交通利便増進計画の策定に着手。現在策定中の、地域公共交通計画と同時進行で進めていく。

問

大船渡市と協定している定住自立圏の中でも取り組んでいくべきと考えるが。

答

具体的内容は検討中だが、今後、定住自立圏の枠組みの中で大船渡住田線を取り上げ、利用促進も含めた存続支援策に取り組んでいきたい。



△ 町のふるさと納税返礼品の紹介をしているポータルサイト

令和6年度 一般会計 補正予算

ふるさと納税の業務改善

～返礼品の開発を強化～

- 問**

まちづくり応援寄付推進業務とは。ふるさと納税に関する推進業務。
- 答**

具体的には、ポータルサイトの管理、返礼品の開発、発送の管理。委託先専門業者の知見を得ての品質やサービスの向上を考えている。
- 問**

返礼品の品揃えはどうか。
- 答**

現在、町の返礼品は80品目を登録している。新規の返礼品は少ない状況である。

スギ花粉対策

問 花粉の少ない森林への転換促進対策事業の内容は。

答 国が進める花粉症発生源対策で、町内の林業事業体が施設や機械設備の整備をする場合に、補助経費の上限を1000万円とし、1/2の補助金を交付する。森林環境譲与税を財源と見込んでいる。花粉の少ない杉苗は、従来苗と比べ、花粉の飛散量は半分程度、価格は約3割高である。

条例改正

12月2日から

マイナ保険証へ移行

健康保険の被保険者証（健康保険証）は、令和6年12月2日に廃止され、原則として、マイナンバーカードに健康保険証機能を持たせた「マイナ保険証」に一本化される。法改正に伴い、国民健康保険条例の一部を改正する条例など4

補足説明

健康保険証は最長で1年間使用可能。「マイナ保険証」を持たない人には、申請がなくても自治体や健康保険組合などから「資格確認書」が交付される。

議案が審議され可決された。

人事案件に同意

教育長



まつたか まさとし
松高 正俊 氏
(64歳)

世田米字小口洞(再任)
任期は令和6年10月1日
から令和9年9月30日まで

教育委員

さとう まゆみ
佐藤 真由美 氏
(46歳)

世田米字上日向(新任)
任期は令和6年10月1日
から令和10年9月30日まで

賛否の分かれた議案

○:賛成 ×:反対 -:議長
議長は議決に加わりません

議 案	金野 千津	荻原 勝	佐々木初雄	佐々木信一	瀧本 正徳	村上 薫	阿部 祐一	林崎 幸正	菊池 孝	高橋 靖	水野 正勝	佐々木春一	採決結果
議案第12号 教育委員会の教育長の任命に関し同意を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	-	同意

令和5年度決算

どう使われた

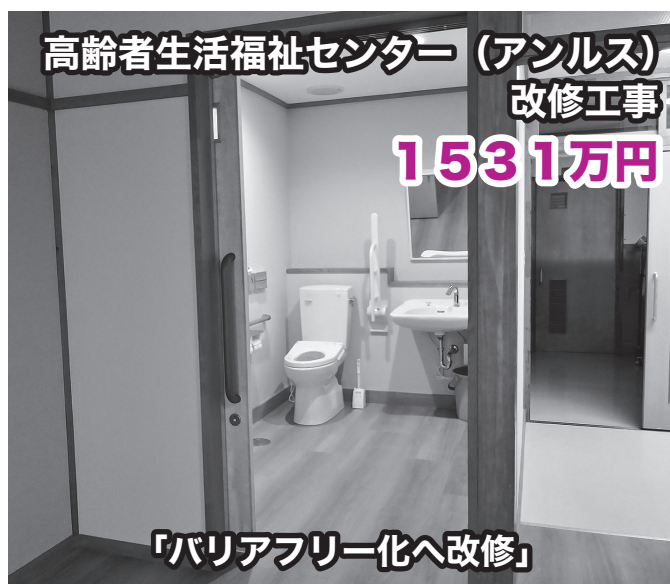
51億円（一般会計）

令和5年度一般会計決算は、歳入52億9921万円、歳出51億4641万円で、歳出は前年度比4133万円の減額となりました。これは、新型コロナウイルス感染症対策関係費や、仕事・学びの場新築工事、情報通信基盤施設基金積立金の減額などによるものです。

決算審査とは

決算審査は、資料に基づきその行政効果や経済効果を測定し、住民に代わって行政効果を評価します。審査の結果は後年度の予算編成や行政執行に生かされます。

決算審査において重要なことは、「金をいくらか使ったか」でなく、「住民のためにどのような仕事をしたか、その仕事の成果と効果があったかを確認することです。」



決算ピックアップ

決算監査意見書

代表監査委員 紺野 仁

1. 公共施設の整備と維持管理について
公共施設は住民福祉の向上に欠かせない施設である。維持管理や年次更新を適切に行う必要があり、基金の整備・運用を検討していただきたい。

2. 予算の適正執行と健全な財政運営について

令和6年度以降、昭和橋掛け替え、庁舎周辺公共施設の検討、上下水道、地域情報通信基盤施設などの改修や新たな整備に多額の費用が必要となる。起債償還計画と合わせ、適切な財政計画に沿った財政運営に努められたい。

3. 職員の働き方改革について

時間外勤務削減のみを目的とするのではなく、職場ごとの業務量・内容・業務の偏り、人員配置などを十分把握し、働きやすい環境作りなど、労働環境の改善に努めていただきたい。

一般会計 歳入 財源構成

自主財源 11億4838万円(21.7%)：町税・使用料及び手数料・財産収入等

依存財源 41億5083万円(78.3%)：地方交付税・国庫支出金・町債等

町債（借金）と基金（貯金）の状況

一般会計

令和6年3月末日 人口：4742人

借金

貯金

町債(借金)

49億9146万円

町民1人あたり 105万円

基金(貯金) 24基金計

66億4281万円

町民1人あたり 140万円

令和5年度 各会計決算

会計区分		収入	支出	差引額
一般会計		52億9921万円	51億4641万円	1億5280万円
特別会計	国民健康保険	7億4222万円	6億6340万円	7882万円
	介護保険（保険事業）	9億9794万円	9億4127万円	5667万円
	介護保険（介護保険サービス事業）	328万円	214万円	114万円
	後期高齢者医療	7923万円	7870万円	53万円
合 計		71億2188万円	68億3192万円	2億8996万円
簡易水道事業会計	収益的収支	1億6430万円	1億3433万円	2997万円
	資本的収支	3847万円	8699万円	△4852万円
下水道事業会計	収益的収支	1億3313万円	1億2556万円	757万円
	資本的収支	3489万円	3867万円	△378万円



一般会計からの繰出金の状況

会計区分	令和5年度	前年比増減
国民健康保険	5419万円	52万円
介護保険	1億3386万円	△342万円
後期高齢者医療	2940万円	115万円
簡易水道事業	3847万円	328万円
下水道事業	3445万円	565万円
計	2億9037万円	718万円

一般会計と特別会計や事業会計、または特別会計間で一方の会計の収支不足を補填するために他方の会計から充用されるお金のこと。
総務省の繰出基準に基づき、財政措置が認められている「基準内繰出金」と、繰出基準に基づかず、財源措置の対象とならない「基準外繰出金」がある。

「繰出金とは」

ここに注目

消防屯所外壁塗装

184万8000円

Q 施工した屯所の建築年数と塗装に至った経緯はどうか。

A 中沢（1分団3部）、八日町（6分団1部）の屯所は、平成27年に新築し、7年が経過。木造であることから、定期的な塗装を要する。壁が黒ずんできたことなども考慮し、実施した。



△ 外壁塗装が施された6分団1部の屯所

賛成討論

住民に寄り添った事業

阿部祐一 委員

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した中で、「医・食・住」の重点施策に取り組まれた。関係機関と連携した感染症対策や物価高騰対策に係るプレミアム商品券の発行、滝観洞観光センター受付棟の建設、イコウェルすみの開設による関係人口の拡大、農林業における担い手対策や航空レーザ測量など、住民に寄り添った事業が実施されたことを評価する。

総括質疑

共に成長している実感

村上 薫 委員

問 国が進める地方創生に対し、中山間地の地方自治体の長として、何を期待し評価しているか。

答 町長

地方創生で重要なことは、持続可能なまちづくりと地域の活性化と捉える。対策として、国策による財政支援のあり方を含めた制度改革が不可欠であると考えている。

問 先輩職員と新規採用職員のペアによる人材育成制度であるメンター制度の成果と課題はどうか。

答 総務課長

参加職員のアンケートによる共通点は、「共に成長している実感」があげられる。課題は、ペアにより活動差が生じていることである。

問 昭和橋架け替えに伴う安全対策と町道改良の取り組み状況はどうか。

答 建設課長

新橋と町道火石川向線との接合部分が既設よりも上昇する。高齢者などへの安全確保の観点から、県と協議し、現況より10mほど取り付け距離を延長し、傾斜角を緩やかになるように変更している。

賛否が分かれた認定・議案

○：賛成 ×：反対 ー：議長

認 定 ・ 議 案	金 野 千 津	荻 原 勝	佐 々 木 初 雄	佐 々 木 信 一	瀧 本 正 徳	村 上 薫	阿 部 祐 一	林 崎 幸 正	菊 池 孝	高 橋 靖	水 野 正 勝	佐 々 木 春 一	採 決 結 果
決算審査特別委員会	委員長（佐々木信一）議長（佐々木春一）は採決に加わりません。												
認定第1号 令和5年度住田町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	×	○	ー	認定
本会議	議長（佐々木春一）は採決に加わりません。												
議案第1号 令和5年度住田町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	ー	可決

住民目線でチェック

— 決算は適正か 事業効果はどうか —

決算審査特別委員会は、9月17日から19日までの3日間にわたって開かれ、令和5年度の一般会計、3特別会計、2公営企業会計の決算について審議。すべて原案のとおり、賛成多数で認定しました。

ここでは、委員が取り上げた質疑と、総括質疑、討論をお知らせします。

決算審査特別委員会

委員長
佐々木 信 一

副委員長
高 橋 靖

緊急通報体制整備事業

106万4734円

Q 緊急通報装置の設置実績と対象者はどうか。

A 1人暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯に対し、19台を設置した。希望者を受付、包括支援センターで調査し、可否を判断した上での実施となる。不安のある高齢者が、安心して生活ができるよう継続して取り組む。



△ ペンダント式の通報装置も併せて貸与

移住支援事業

429万6820円

Q 移住支援事業において、どのような取り組みや実施実績があったのか。

A 移住コーディネーターを選定し、移住に関する調査研究を実施。県が主催する移住フェアへのブース出展を1回行った。移住イベントに関わりのあった方などを対象とした移住体験ツアーを企画した。



△ 本年9月にも移住関連イベントに参加

遊林ランド管理委託

255万7252円

Q 種山ヶ原体験交流センターの利用実績と今後の展望はどうか。

A 町内外の保育園行事や散策会による休憩や雨天時の利活用となる。さらなる有効活用のため、各課横断で検討協議を継続していきたい。



△ 今後の展開が課題となっている遊林ランド

畜産堆肥利用促進補助金

10万3000円

Q 当初予算では、84万4000円で計上していたが、支出額は、10万3000円となった。支給が低調となった要因をどう捉え、今後取り組んでいく考えか。

A 5年度に創設した事業となる。多くの申請を見込んだが、浸透不足が一因と捉える。2団体において、対象面積7.2ha、25.9tの利用実績があった。堆肥1t当たり4000円の補助額となる事業。今後も継続して取り組み、PRなど利用拡大を図っていきたい。

登壇！

一般質問

町の考えを問う

樹木管理、環境問題
総合計画などで論戦

ページ	質問者 (登壇順)	質問項目
9	荻原 勝	①町民の移動手段確保 ②観光振興
10	瀧本 正徳	①私有林、樹木などの適切管理 ②教育の充実
11	村上 薫	①次期総合計画 ②ICT整備運用基金創設とICT監査
12	金野 千津	①介護予防事業など健康事業 ②環境問題への取り組み
13	阿部 祐一	①庁舎周辺整備事業 ②鳥獣害対策

全文記録（議事録）は、役場庁舎2階の総務課と町のホームページ上で閲覧できます。
(QRコードで議会ホームページへ直接進むことができます)

▼QRコード



一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたって、執行機関に対し、施策の状況や将来の方針など、所信や疑問点をただすことができる重要な議員活動の場です。1回目の質問事項は、事前に執行機関へ通告されており、全項目を一括して質問。2回目以降の再質問は、1問1答方式で行っています。持ち時間は、答弁を含めて一人あたり60分です。ここからは、主な質問と答弁を要約した内容を登壇順にお知らせしていきます。

問 公共交通空白をなくせ

答 地域公共交通計画で

問 町内に「公共交通空白地域」があることなど住民移動の課題にどう取り組んで行くか。

答 町長

人口減少やライフスタイルの変化に伴い、バス、タクシーをはじめとした本町の地域公共交通を取り巻く環境は、需要・供給の両面において、現状を維持していくことが厳しくなっている。本年度、

交通事業者や住民など地域の関係者と協議しながら、地域公共交通計画を策定する。

問 現行のコミュニティバスやデマンド交通をどう捉えているか。

答 町長

コミュニティバスは、決められた場所に決められた時間に来ることで、一定の利用があるものと捉えている。見

直しが必要な時期に来ている。地域公共交通計画の中で、効率的で効果的な仕組みづくりを考えていきたい。

デマンド交通は、運行方法や料金体系などさまざまある。特にA I

デマンドの場合は、予約や運行経路が合理的になるが、ソフトやハードの整備に経費がかかる。補助金の活用を考えながら検討したい。



おぎわら 荻原 まさる 議員

地方版
ライドシェアの
活用を研究すべき。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 体験型観光の推進を

答 関係機関・団体と連携

問 住田町は体験型の観光を進めるべき。

答 町長

体験型観光は、地域固有のアクティビティ（活動体験）や文化体験を含めた旅行形態として注目されている。本町は、種山ヶ原、滝観洞、気仙川など美しい自然を有し、山や川、森林浴などを満喫できる体験型観光にふさわしい地域資源に恵まれた町である。これらを活用した観光に、関係機関・団体と連携して取り組んでいきたい。

問 国道397号から町道移管された「中井〜津付区間」の観光活用を考えられないか。

答 町長

中井〜津付区間の町道は、交通量が減少し、シカなど野生動物の出没も増えているため、観光活用は考えていない。国道397号沿いには、種山ヶ原森林公園、栗木鉄山跡、名勝環川など風景や歴史文化を感じながら散策できる場所がある。トレイルコースとして十分魅力ある資源と捉える。



△ 自然環境が豊かで、川のせせらぎが心地よい道でもある中井〜津付区間の町道

問 道路への倒木事故を防げ

答 所有者の適正管理で

問 道路沿いに植生している枯れ木は倒木事故が懸念される。安心安全な環境保持のため適正な管理をすべきであり、未然に倒木事故を起こさぬために、固定資産税の通知などに合わせ、所有者へ適切な管理義務を伝えるべきと思うがどうか。

答 町長 倒木が懸念される樹木を含め管理は所有者にある。税通知に合わせたお知らせはできない制度となっている。適正管理の周知は広報紙やSNSで実施する。現実を見、危険防止の手段方法の協議を進める。

問 町管理の道路などに、隣地から張り出している樹木の枝は、安全や景観上も問題である。民法改正もあつたが、今後の道路維持はどのように対応するか。

答 町長 道路法及び道路構造令により、車道上空4.5m、歩道上空2.5mを道路安全の空間、建築限界と定め、伐採などの定期的な管理を所有者に依頼している。民法改正により、所有者不明や急迫時は所有自治体の枝切りが可能。今後も定期的なパトロールを行い、道路の交通安全を図る。



△ 道路への倒木が心配される枯れた松の木

問 小・中・高校が取り組んだ、「地域創造学」学校公開研究会がこの秋に開催される。取り組みを地域に発信し、成果を町づくり活動に生かす機会とすべき。

答 教育長 地域創造学では、住田町や近隣市をフィールドに、様々な課題やプロジェクトを、地域の方々の協力を得て学習活動を展開した。課題を自分事として受け、解決に向けて主体的に取り組んだ成果を発表する。来年度以降も学習を継承し、町の活性化に生かしたい。



たきもと まさのり
瀧本 正徳 議員

安全・安心な
生活環境が原点。
事が起こる前の
対処こそが大切。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 町長公約達成状況は

答 医・食・住に成果

問 2期目の節目を迎えた町長公約達成状況と今後の展望は。

答 町長

「医・食・住」の生活の基本を底上げしながら、支え合う共生のまちの実現に向け、各種施策を進めてきた。今期は新型コロナウイルス

ルス感染症が大きな課題となり対応策に取り組む。一定の成果を挙げてきたが、人口減少に歯止めがかからず、大きな課題と認識している。今後も現在の職責を果たす。次期総合計画策定の中で施策の方向性を示す。

地域創造学

問 小・中・高校が取り組んだ、「地域創造学」学校公開研究会がこの秋に開催される。取り組みを地域に発信し、成果を町づくり活動に生かす機会とすべき。

答 教育長

問 どう高める 町の魅力

答 ブランド力は大きな力

問 次期総合計画で神田町政が目指すブランドビジョンはいかなるものか。どのように反映されるのか。

答 町長

「医・食・住」、生活の基本をしつかりと作り上げ「支え合う共生の町」を目指すことが、ブランドビジョンと考えている。

住民懇談会や総合計画推進委員会などで意見を伺っていく。

問 昨年5月五葉地区でCLT工場建設計画の説明会があった。森林・林業日本一を目指す町づくりをどのように進める考えか。

答 町長

現在、CLT工場建設に必要な各種手続きの相談を受けており、各担当課で対応し、支援をしていく。

問 西和賀町の「ユキノチカラ」や海士町の

「ないものはない」のように、町の魅力発信にはデザインとブランド力は欠かせない。どのように高めていく考えか。

答 町長

町内産品を町外に売り込むためには、デザインやブランド力は大きな力になると捉えている。感性を高め、斬新なアイデアのヒントにつながるよう努めていく。



むらかみ 村上
かおる 議員

デザインやブランド力が高い自治体ほど、「ふるさと納税」で多額の寄付を得ている。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 町づくりの中核に図書館を

答 海士町の構想は魅力的

※海士町島まるごと図書館構想
学校や地区公民館を中央図書館の図書分館に位置付けてネットワーク化し、島全体を一つの図書館とみなす構想。



△ 若い世代が移住を考える重要な要素に図書館の充実が挙げられている。町の元気アップと魅力アップにつながる

問 人づくりは町づくりにつながる。町づくりの中核に中央図書館整備を据え、「町まるごと図書館構想」の実現を図ってみてはいかがか。

答 教育長

島根県海士町での「海士町島まるごと図書館構想」を参考に、教育委員会でも構想を練るべきとの提案と承知する。同構想は、町づくりの情報拠点やWiFiやカフェも整備され魅力的と考えている。

問 中央公民館図書室は、第10次教育振興基本計画の中で整備をするとしている。現状、図書室の狭さや閉鎖的状況を改善するため早期に計画を進めるべきではないか。

答 教育長

図書館の建設は、役場周辺整備との調整を図りつつ慎重に協議をしていく。

※その他の質問
・ICT整備運用基金
創設とICT監査

問 低栄養高齢者の対応は

答 体組成計活用で意識向上



きんの ちづ 議員
金野 千津

町の考えを問う

低栄養を防ぐことは
介護予防の第一歩。
高齢者も若者も
身体の状態を知って
健康意識を持とう。

議員のつぶやき

問 介護予防事業の成果をどう捉えているか。

答 町長

ミニデイ、リハビリサロン、「目指せ100歳健康プロジェクト」推進などの介護予防事業に取り組んでいる。元気高齢者が95%で推移しており一定の成果をあげている。

問 低栄養の高齢者への取り組みと課題は。

答 町長

低栄養はフレイル（虚弱状態）を引き起こし、日常生活に支障をきたす要因となり得る。機会を捉えて低栄養・フレイルを予防する食事の普及、たんぱ



△ 住田で初の地域食堂「みんなの食堂」。児童生徒の食育、高齢者の食事支援の場にも

く質の摂取指導、低栄養の方の個別指導などを実施している。

指導を行っても行動変容に至らないことが課題であるが、体組成計を活用するなど、意識向上を図っていく。

問 社会体育館へのトレーニングルーム設置で運動の機会と場所を増やしてはどうか。

答 町長

スポーツやトレーニングをする方は志向も方法も多様化している。社会体育館へのトレーニングルーム設置は今のところ考えていないが、年齢に関係なく運動習慣は重要と捉え、推進していきたい。

問 どう推進3R運動

答 住民意識を啓発

問 令和7年度からのペットボトル分別に向けての取り組みは。

答 町長

関係機関と協議を進めている。具体的内容が決定後、住民への情報周知、分別収集への意識啓発を計画する。

交付は行っていない。

問 循環型社会の構築は重要課題である。環境基本計画にある3R運動を住民にどのように推進するのか。

答 町長

ゴミの発生や資源の消費削減「リデュース」、ゴミにせず繰り返し使う「リユース」、ゴミにせず再資源化する「リサイクル」、この3つの考え方に意識転換できるよう広報活動に取り組みとともに、町民への協力を得ながら、環境基本計画を推進していきたい。

問 家庭の生ゴミを減らす取り組みとその成果はどうか。

答 町長

町公衆衛生組合連合会が実施主体となり、電動生ゴミ処理機の購入補助を行っている。コンポストは、臭いで野生動物を誘引する可能性もあり、令和3年度から急激に申請者が減少。現在、補助金の

問 庁舎周辺整備を急げ

答 財政見通しにより判断

問 図書室が設置されている生活改善センターは、昭和46年に建設。54年が経過している。今後の改築では図書館の機能が求められる。次期総合計画でどう取り組むのか。

答 町長 できた。令和4年度以降、関係機関との調整に時間を有し、現時点において整備計画の策定に至っていないのが現状である。

問 農林会館は、昭和56年に建設され43年が経過。これまで施設や設備の改修をしているが、トイレの改修は進んでいない。改築及び改修に向け今後の方をどう考えているか。

答 町長 農林会館は、当面の間、施設の利用に支障をきたすような不具合が生じた際はその都度対応していく。

今後の改築は生活改善センターを含めて、中・長期的な財政見通しに基づき適切な整備時期を判断する。人口減少による利用率の減少などの課題を解決しながら庁舎周辺整備計画の策定に取り組む。



あべ ゆういち
阿部 祐一 議員

大型公共物の建設計画は、次期総合計画の中に明示すべきだ。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 ハンターの本格養成を

答 免許取得や活動に補助

問 町内の鳥獣被害は年々増すばかりである。被害を防ぐにはハンターによる捕獲が一番効果が高いと考える。養成に本格的に取り組むべき。

答 町長 平成25年から猟友会の協力で、住田町鳥獣被害対策実施隊を中心に取り組みを推進してきた。毎年二ホンジカを中心に約1000頭の捕獲実績を上げてきた。隊員数は発足当時の37名だった。令和6年



△ 住田町鳥獣被害対策協議会による二ホンジカ・サルの被害調査の状況

には43名体制になった。隊員養成の取り組みは、狩猟免許の取得、猟銃やワナなどの購入に関わる経費を補助し、新たな隊員の確保に努めてきた。継続して捕獲活動に従事できるように隊員報酬や捕獲活動に要する経費を助成するなど支援策も講じている。

※その他の質問
・複合柵設置に補助
・放棄果樹伐採による被害防止

地域事情に対応

総務教民常任委員会

委員長
荻原 勝

調査事項

高齢者等の移動手段確保

実施した活動

気仙2市の公共交通に関する行政視察

議会 レポート 活動報告

6～9月

議会レポート

ここでは、総務教民常任委員会の所管事務調査に係る行政視察や気仙地区議会議員協議会で実施した研修会、新設された議会タブルット導入推進委員会の取り組み、JR釜石線沿線市町議員連盟の設立総会など、活動内容を要約し、ご報告します。

行政視察① 陸前高田市

期日

令和6年7月12日

研修内容

- 1、ふるさとタクシー
助成事業
- 2、支え合い交通
(無償送迎)
- 3、デマンド交通
(予約型乗り合い
タクシー)
- 4、路線バス陸前高田
住田線の運行



支え合い交通

らいじん号 (横田)

○地域ボランティアによる高齢者の無償送迎。行先は、県立高田病院や市役所、金融機関、商業施設。週1回の運行。利用登録者41名、運転手13名。

○支え合い交通には、高齢者等への見守りや安否確認の目的がある。運転手には、白ナンバーで運行できると研修を実施している。

タクシー券事業

財源はふるさと納税

○市内全域の運転免許を持たない75歳以上の高齢者などにタクシー券を交付する事業。交付枚数は、市中心地からの距離に応じて定められている。

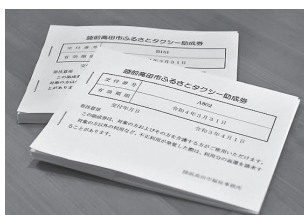
○財源はふるさと納税の寄附金をあてている。



△らいじん号としての指定乗降場所はあるが、実際には利用者の自宅前まで車を横付けしている。利用者に応じて、昇降台も準備

委員長の所感

支え合い交通では、地元の議員や住民が中心となり進めている。「自分の地域のことは自分たちで。」という意識が強く、様々な課題を克服しており、地域の力の重要性を感じた。



△ ふるさとタクシー助成券
(写真提供：東海新報社)

行政視察② 大船渡市

期日

令和6年7月12日

研修内容

- 1、タクシーチケット配布事業
- 2、デマンド交通
・日頃市地区
・越喜来地区
・末崎地区
- 3、岩手県交通路線バス大船渡住田線の存続

デマンド交通

(日頃市)

移動手段として定着

○デマンド交通は、利用したい人がいる時だけ、利用場所へ運行するシステム。

タクシーと異なり、運行時間と乗降場所を固定。事前予約をし、乗りたい時間と行きたい場所を伝える。同じ時間に同じ方向に利用したい住民が複数いた場合、同乗利用も可能。

○日頃市地区のデマンド交通は、平成27年度に運行を開始。実証試験を重ね現在に至る。令和5年度の利用者は、約1000人となる。

○運行は、同地区から立根町のスーパを結ぶ区間(片道1000円)と同地区から大船渡駅周辺を結ぶ区間(片道1500円)の2区間。

○日頃市地区からの出発便は、7時から13時の間で4便。大船渡・立根地区からの出発便は、12時と15時の2便となる。

○乗り合い率向上のため、今年度より、乗合割引や高校生の通学割を導入。利用者の負担軽減や運行経費縮減を図っている。

タクシー券事業

交通空白地域へ配布

○タクシー券配布事業は、公共交通の空白地域からの移動手段確保対策として実施。

○対象は、福祉タクシーの助成を受けていないこと。自宅が、最寄バス停や駅から300m以上離れ、運転免許証を持たない75歳以上の高齢者となる。大船渡、盛猪川地区などの在住者に限られる。

委員長の所感

デマンド交通やタクシー券など、様々な交通手段がある中、住田町の地域性や状況を捉え、今ある公共交通の利用促進を考えながら住田町にあった取り組みについて住民の方と共に考えていきたい。

気仙の振興発展を

気仙地区議会 議員協議会 総会・研修会 交流会

令和6年8月8日
会場地 陸前高田市

研修

能登半島地震から見た、今後の防災対策

講師 陸前高田市

防災局防災課長
中村 吉雄氏

能登半島地震の被害や復興状況、課題など、現地の様子も交えた講義を受けました。

大船渡市議会、陸前高田市議会、住田町議会で構成されている気仙地区議会議員協議会による総会と研修会、交流会が開催されました。

総会では、令和5年度事業決算を承認し、6年度の事業計画と対県要望事項を決定。研修では、防災対策を受講。気仙の発展を目指し、交流を深めました。



第59回 気仙地区議会議員協議会総会・研修会

議会タブレット導入推進委員会

社会環境の変化に対応 デジタル化でより良い議会へ

このほど当議会では、人口減少や働き方改革、有事における業務継続、業務の負担軽減・効率化、開かれた議会づくりや活性化など、社会環境の変化に対応し、より良い議会を実現していくため、議会へのタブレット端末導入に取り組みます。

委員長 水野 正勝
副委員長 金野 千津
委員 村上 薫
瀧本 正徳
オブザーバー 佐々木春一

活動内容

(1) タブレット導入に係る目的の整理と運用活用計画の策定

(2) タブレット端末や会議ソフトなどの選定、使用に関する規定などの策定

(3) 運用方法や活用、使用に関する規定などの事例の調査研究

(4) タブレット端末や会議ソフトなどの性能に係る調査研究

(5) 本格運用までの準備と使用に関する各議員へのサポートなど



△ タブレット端末

議会のデジタル化（タブレット導入）による目指すべき姿

① 情報共有の円滑化と迅速化
（文書・資料のデジタル化、ペーパーレス化など）

② 会議の高度化と効率化
（発言の際の資料提示、災害時や緊急時におけるオンライン会議による議会機能の継続など）

③ 議会活動の見える化や透明化
（会議のインターネット中継や録画配信）

④ 住民とのコミュニケーションの高度化
（SNSの活用やインターネットを活用した住民アンケートなど）

議会へのタブレット導入により期待される効果

① 紙資料の削減による印刷経費の削減

② 議会運営業務の効率化や負担軽減による諸経費（郵送料など）の削減

③ 招集通知や周知などの迅速化

④ 会議資料や研究資料などのデータによる保存

⑤ 災害時の安否確認や写真などによる被害状況の報告と共有

⑥ 遠隔地での会議や研修への参加

⑦ 広報紙の編集作業の効率化など

2市1町で研修

タブレット導入にあたり、運用を進めている先進議会への視察研修を実施。活用事例や使用規定、機種や会議ソフトの説明を受け、導入後のメリットや課題も確認。視察の成果を今後の取り組みに活かしていきます。

・令和6年7月23日

大船渡市議会
陸前高田市議会

・令和6年8月27日

平泉町議会



△ 平泉町議会では、高橋議長と升沢副議長にご対応いただいた

JR釜石線 沿線市町議員連盟 設立総会

期日：令和6年7月19日
場所：東和コミュニティセンター
出席：水野 正勝 副議長
阿部 祐一 議員
瀧本 正徳 議員
佐々木信一 議員
佐々木初雄 議員
荻原 勝 議員
金野 千津 議員

利用促進策の協議 具体化を目指して



花巻市、遠野市、釜石市、住田町の市町議会議員の相互交流を通じて、共同で釜石線利用促進に向けて研究・活動することを目的とした「JR釜石線沿線市町議会議員連盟」が設立しました。当議会から選任された役員は、次の通りとなります。

顧問	佐々木春一	議長
副会長	水野 正勝	副議長
運営委員	荻原 勝	議員
	(総務教民常任委員長)	
	佐々木信一	議員
	(産業経済常任委員長)	
	阿部 祐一	議員
	(総務教民常任副委員長)	

当日は、「地方交通線の現状と取り組みについて」と題し、東日本旅客鉄道(株)盛岡支社の井上宏和氏を講師に記念講演も行われました。JR釜石線の現状について理解を深めました。

岩手・宮城 県際市町議会 議長会 総会・視察 懇談会

令和6年7月25日
会場地 一関市
出席 佐々木 春一議長
水野 正勝副議長

国への要望決定

栗原市、気仙沼市、南三陸町、登米市、陸前高田市、大船渡市、平泉町、一関市、住田町の市町議会にて構成する岩手・宮城県県際市町議会議長会による総会と視察研修、懇談会が開催されました。総会では、選出国会議員や関係省庁への要望項目6議案を決定しました。

要望項目

- ① ILCの誘致実現
- ② 医師確保と地域への均衡ある医療体制の構築
- ③ 一関・気仙沼間道路の高規格化の実現
- ④ 林業の活性化に向けた木材需要の拡大
- ⑤ 復興事業により造成された土地の利活用推進及び管理対策
- ⑥ 国道343号の整備促進

岩手・秋田 山形県合同 中央研修会 選出国会議員 との懇談会

令和6年8月22日・23日
会場地 東京都千代田区
出席 佐々木 春一議長
水野 正勝副議長

岩手・秋田・山形県の町村議長会の共催による合同研修会が開催され、国際情勢や地方改革など、注視すべき国政や地方課題について講義を受けました。県選出国会議員との懇談会では、令和7年度の重点要望項目として、防災・減災・国土強靱化の推進など、9件60項目の中から、各議長が提言をし、国会

議員と意見を交換しました。

研修項目

- 1、ロシア・ウクライナ戦争と日本の安全保障
- 2、女性の県外流出解消に向けた地方圏の改革
- 3、政局動向「日本政治：このあとどこへ」岸田首相の次は…

追跡レポート⑧ 一般質問その後 どうなりました

あの提言

開かれた町政の推進 内外に情報発信を

議員が行う質問や提言が、町政にどう反映されているか。これまでの質問の中から一部を取り上げ、その後どうなったか追跡してみました。

質 問

情報発信を HPやSNSで

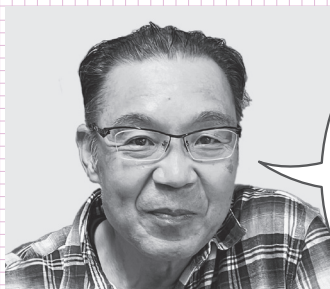
住田町をより広く内・外に発信するためには、ホームページのさらなる充実や町公式ソーシャルメディアへの対応は不可欠である。

答 弁

町の PRツールとして有効

町ホームページは充実に向け見直しを進めている。SNS（ソーシャルネットワークサービス）の活用は、情報発信PRツールとして有効であるが、リスクもあり慎重に判断していきたい。

その後



住民の声

いわき かずひこ
岩城 和彦 さん
(世田米字西風)

私は主にフェイスブックを利用しています。見る度に、町の歴史や文化活動などを知ることができ、町の良さを再認識しながら、楽しんでいます。

町公認のSNSアカウント 「ハロー！住田町」を開設

フェイスブック



インスタグラム



X (旧ツイッター)



ユーチューブ
「住田町【公式】」



町の
「今と魅力と楽しさ」が
伝わります。

すみた想い人¹⁶

町民の皆さんに登
場していただく企画
になります。町や議
会に対しての意見
活動を通して「まち
づくり」への想いを
紹介していきます。



△木のぬくもりを感じさせる落ち着いた店内、静かな時間が流れます

今回は、9月9日に
世田米商店街の一角に
コーヒーとドーナツの
店「アスコーヒー」を
オープンした植田真治
さんにお店や住田への
想いを聞きました。
店名（アス…私達）
に込めた想いが伺えま
す。

Q 住田町の魅力を
どう感じていま
すか。
A 商店街が魅力的
なので、この場
所にこだわりました。
自分子どもたちのお
じいちゃんや、おばあ

Q 住田町にはいつ
からお住まいで
すか。
A 震災後、地元の
釜石に戻り、市
役所で働いておりまし
た。結婚を機に、妻が
働いている住田町に移
住し8年になります。



うえだ 真治さん（世田米字世田米駅）

若者の起業で街に賑わいを

ちゃんがたくさん出来
たように感じます。皆
さんに声をかけていた
だき、子育ても支援し
ていただいております。
住田町は人が魅力
だと感じています。

Q お店を始めた
きっかけと、今
後の計画は。

A 妻にも好きなこ
とをしたらと後
押しされ、以前から好
きだった、コーヒーに
きだつた、

こだわった店をオープ
ンしました。子どもか
らお年寄りまで、世代
を超えて集まれる店を
持ちたいと考えてコー
ヒーだけでなく、ドー
ナツも提供することに
しました。

将来的には、軽くお
酒も飲めるお店にしたい
と考えています。

Q 町や議会への想
いをお聞かせく
ださい。

議会を傍聴しよう！

町議会は誰でも傍聴でき
ます。次の12月議会の予
定は下表のとおり。
生活改善センター議会棟
の入口から案内に従って傍
聴席へお入りください。

令和6年9月
議会の傍聴者は
8人でした



12月議会は

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

住田テレビ放映もどうぞ



本会議や一般質問の様子は、
住田テレビの「議会放送」でも
ご覧いただけます。
放映時間は午後6時からです。

A 住んでいる借家
の1階部分の店
舗跡を自由に使って良
いと言われ店に改修し
ました。商店街には同
じように店舗部分が空
いている住宅があるの
で、若者が気軽にチャ
レンジできる場所にな
れば、若い人が夢への
挑戦が出来て、商店街
も賑わうのではないかと
思います。やる気を
支援する環境が必要と
感じます。

わたしの未来

住田町の子どもたちが
将来の夢を語る
コーナーです。
自薦・他薦も大歓迎。申し
込みをお待ちしています。

夢はバレー選手

私の夢は、**バレーボール選手**です。パリオリンピックで石川真佑選手がスパイクを決めているところを見ました。私もあんな風にスパイクを打てるようになりたいです。そのために、スパイクの助走や打ち方を意識して一生懸命に練習を頑張っていきたいと思います。



有住小学校6年
ふじい こね
藤井 心音
(上有住字土倉)

動物と一緒に

私の将来の夢は、**たくさんの動物と一緒に暮らす**ことです。私は、フェレットという動物とポメラニアンという二匹の犬と一緒に生活しています。お世話は大変でも、たくさん遊んだりしてとても楽しいです。将来、ハリネズミやインコも飼いたいです。



世田米小学校6年
さとう はのん
佐藤 華音
(世田米字川向)

編集後記

委員 金野千津

▼全国的な米不足を心配しましたが、黄金色に実った稲の刈り入れも順調に進んでいるようでほっと一息です。▼今年度は住田町総合計画、住田町公共交通計画といった、町民の生活に直接関わる極めて重要な計画策定が進められています。残り1年を切った神田町政が、これからの町の方向性を示す大切な計画となるため、議会としても多数議論が交わされました。▼皆様の忌憚のない声をお聞かせください。

表紙の写真



有住保育園



有住保育園で行われた「森の保育園」にお邪魔してきました。秋の種山を散策してゲットした戦利品を広げて、森のお弁当作りに挑戦した子どもたち。ツヤツヤのどんぐりや、コロんと大きな山なし、様々な形の葉っぱやお花を自由にお弁当箱に詰め「できたよー！」と嬉しそうに見せてくれました。そんな中、初めての森の保育園となった年中さんを優しく手伝う年長さんの姿も見られ、春の時よりぐっと大人になったなあと感じた一日でした。

広報編集常任委員会

発行責任者

議長	佐々木 春 一
委員 長	水 野 正 勝
副委員長	荻 原 祐 勝
委員	阿 村 上 正 勝
	瀧 本 正 勝
	金 野 千 津

